

問題013 荘園と武士② 院政期の社会と文化①

01 〔 〕（恵心僧都）は、
『 』で極楽往生の方法を確立した。また、極楽往生と遂げたと信じられた人々の伝記集である〔 〕がさかんに編集された。

02 平安時代に発達した貴族の邸宅様式を〔 〕とよぶ。

03 藤原頼通が 1052 年に宇治に建立した〔 〕は代表的な阿弥陀堂建築である。

04 その阿弥陀如来像は、仏師〔 〕が〔 〕造〕の手法で制作した。

05 臨終の際に阿弥陀仏が救済のために迎えに来る様子を描いた〔 〕がさかんとなった。

06 従来の唐絵に対し、平安中期に日本の風景などを描いた絵画は〔 〕と呼ばれた。また漆器の技法である〔 〕が発達した。

07 平安中期には和様の能書家として〔 〕があらわれ、和様の書が完成した。藤原佐理の『 』が代表作である。

08 貴族の正装は〔 〕でその略式の礼装は〔 〕と呼ばれた。女官の正装は〔 〕（十二単）であった。

09 男子の成人式にあたるのが〔 〕で、女子の成人式にあたるのが〔 〕であった。

10 家柄が固定化する中、貴族たちはわらをもすがる思いで、陰陽師の占いにすがった。外出を避けて自宅で謹む〔 〕や、外出の際に方角を変えて移動する〔 〕などが行われた。それでも願いが叶わなかった時の失望は大きく、〔 〕教〕が広まる一因ともなった。

●平安中期の地方社会

01 10 世紀以降、人頭税から土地税への移行が進み、国司は徴税請負人化したが、やがて現地に赴かない〔 〕の国司〕や国司に代わり現地に派遣される〔 〕

が登場し、それを地元の有力者が務める〔 〕が支える体制へ移行した。

02 任国に赴いた国司は〔 〕と呼ばれるようになり、当時〔 〕と呼ばれた有力農民に〔 〕の経営を請け負わせた。名の経営を請け負った有力農民を〔 〕という。

03 10 世紀末、農民の力が台頭する中で、現地の有力者や百姓が受領を訴えた〔 〕の史料が残る。

04 平安中期以降、朝廷や上級貴族に財物を提供し代わりに官職を得る〔 〕がさかんにおこなわれた。

05 朝廷に財物を提供し、任期の終了後に官職に再任される〔 〕も行われた。

06 地方各地に武士団が成立したが、その代表 3 つは、河内に拠点を築いた〔 〕源氏〕、桓武天皇の子孫である〔 〕平氏〕、それと奥州藤原氏である。

07 武士団は、その首長を〔 〕と呼び、その血族の〔 〕、従者である〔 〕によって構成された。

08 10 世紀前半、東国で〔 〕が、瀬戸内で〔 〕が武士の反乱を起こした。これを〔 〕の乱〕という。

09 朝廷は倒した者には貴族（五位以上）の位を与えると約束し、平将門を倒した〔 〕平 〕や〔 〕藤原 〕などの武士が台頭するきっかけとなった。

10 朝廷は武士を〔 〕や追捕使に任命し、治安維持に武士の力を利用した。